



鳥取市総合教育センターだより

第2号 令和3年 7月13日発行

〒680-0053

鳥取市寺町 150 番地

TEL: 0857-36-6060

FAX: 0857-26-3878

E-mail:

kyo-center@city.tottori.lg.jp

「いつも・近くで・助かる」ICTに

所長 安田 直人

現在、社会の中でデジタル・トランスフォーメーション（DX）が急速に進んでいます。学校教育においても、人工知能（AI）・ビッグデータ・IoT等の先端技術が取り入れられた Society 5.0 時代を生きる全ての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びを実現することが求められているところです。そして「これからの学びにとっては、ICTはマストアイテムであり、ICT環境は鉛筆やノート等の文房具と同様に教育現場において不可欠」*となっています。



ロボット掃除機（鳥取市役所）

新型コロナウイルス感染症への対応のため、本市においても当初の5ヵ年整備計画を前倒しして「GIGAスクール構想」が急ピッチで進められました。環境整備面では、昨年度末までに1人1台の端末・校内無線LANの整備を終え、現在は漸進的に高速光回線化工事を行っているところです。このことにより、すでに接続済みの学術情報ネットワーク（SINET）とあわせて、より多人数でより安定的なインターネットの同時利用が可能となる見込みです。

さて、全面実施となった新学習指導要領では、「必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」とされる情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」として位置づけられており、多くの学校が試行錯誤しながらタブレット端末を積極的に活用されています。今や情報端末は特別なものではなく、学校教育においても必要な場面で必要に応じて普段使いする学習用具の1つと言えるのではないのでしょうか。日常的に頻繁に使用すれば、故障や破損等が懸念されるかもしれませんが、大切にすまうあまりキャビネットに常に保管したままにならないようにしたいものです。



先日の Web 研修で「ICT活用効果は使用時間とともに加速度的に現れる（ $y = x^2$ ）」といったお話がありました。現時点ではまだ不慣れで戸惑いがあっても、使うほどに飛躍的にスキルアップすることと思います。「いつまでも・ちっとも・使えん」ICTではなく「いつも・近くで・助かる」ツールとなるよう、できるところから活用を拡げてみてはいかがでしょうか。総合教育センターでは、今後も環境整備、ハード面を中心に学校の支援の充実に努めて参ります。

*「文部科学省(2019)教育の情報化に関する手引」より

鳥取市GIGAスクール構想の目的

- 1人1台端末と校内ネットワークを一体的に整備することで、一人一人の教育的ニーズに対応した誰一人取り残すことのない学びで、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。
- ICTを効果的に活用した学びを推進し、1人1台端末を活用した授業改善をとおして、子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びを実現する。

※詳細はこちらから→



教職員研修より

使えば使うほど活用効果が期待できるICT

児童生徒の情報活用能力を系統的に育むカリキュラム・マネジメントが求められています。

各学校で情報化推進リーダーの先生を中心に、小中一貫教育の枠組みで情報共有しながら研修を進めていきましょう。

※こちらからダウンロードできます



研修で学校が変わる

情報化推進リーダー研修 まとめ

令和3年5月14日(金)
Web会議による遠隔研修(各校)

「1人1台端末を活用した学びの深化、転換に向けて」

講師 堀田 博史氏(園田学園女子大学 教授)

【研修のねらい】
●児童生徒の情報活用能力育成に向けたカリキュラム・マネジメントや校内研修の進め方について理解し、各校における実践力を高める。

【研修のねらい】
●ICTを活用した双方向の授業の実践について理解し、授業力の向上を図る。

【研修のねらい】
●ICTを活用した双方向の授業の実際について理解し、授業力の向上を図る。

明日への思い
受講者の声をお聴きします(下/右欄)

教員の資熟度に差が激しいため校内三研修会の実施を細分化して行うことを実践してみたいと思った。

職員を4つの分類に分けて研修の内容を変えていくという方法を、タブレット研修のみならず、様々な場面で活用できると思った。

クラウドサービスを活用した授業改善についての研修会を開催したい。

朝のタブレットドリルの学習時間にタイプ練習をさせたい。

情報化推進リーダーに求められる素養は
(1) コンピュータ操作スキルを含む情報教育に関する豊富な知識
(2) 授業の質的改善への取り組みを継続できる授業力
(3) リーダーの異動に備え、多くの教職員を巻き込める人望と計画力

中学校区で情報活用レベルがある程度高まっていることが大切
中学校区で研修を!

研修モデルカリキュラム 10のモジュール
①推進費とマネジメント
②研修計画策定 実施方法
③ICT活用モデル
④教育情報化推進(教育の情報化の全体像)
⑤教育情報化トレンド(最新動向)
⑥先進・優良事例紹介
⑦授業ICT活用ポイント
⑧スキルアップに向けた心構え
⑨ICT活用授業設計
⑩授業設計ワークショップ
(2022年4月「情報化推進リーダー研修のねらい」研修資料より)

どの年代層をターゲットにどのモジュールを中心に研修を組み立てますか?

情報教育担当として、他の職員に周知し取り掛かるべきことの現当否が、まずは中学校区で小学校卒業までに最優先に付けさせたいICT活用能力について他校と協働のうえで、初期に手を打っていく必要があることを感じた。

Google classroomを使った他校の取り組みの具体的な内容をチャットを通して学ばせていただいた。本校でも、連絡の伝達や授業の振り返りなどで活用させていこうと思った。

情報モラルについて、特に健康被害に係る側面を強調して、児童生徒へ指導するときに保護者への啓発や情報発信を行っていききたい。

研修で学校が変わる

中堅教諭等資質向上研修② 16年目研修① まとめ

令和3年6月10日(木)
Web会議による遠隔研修(各校)

「ICTを活用した双方向の授業づくり」
～イメージを共有しよう 1人1台端末の活用～

講師 中川 一史氏(放送大学 教授)

【研修のねらい】
●ICTを活用した双方向の授業の実際について理解し、授業力の向上を図る。

明日への思い
必要に応じてタブレット端末を「活用できる」「活用できる」「活用できない」学習段階の適切な一部分としていきたい。

共有
「たまに1台から 常時1台へ」占有

あたり前が進む
(そこにある 普段使い 授業以外使い)
日常的な活用 効果的な活用 教員の授業方法の改善 児童生徒の活用スキル向上

ICT活用効果 y(効果) = x(時間) ?
今後これに拍車がかかる
子どもも教師もタブレットを どんどん使える学校

GIGAスクール再考
個別課題な学び 組織機能を 見直す 協働的な学び

効果的な活用だけでなく、まずは慣れるために様々な場面で使うことの有意義性を全校職員で共有して実践していきたい。やがてそれらの活動が効果的な活用を促進することにつながり、学校も有効な活用とはどんな活用かを議論するくらい浸透させていきたい。

中川先生に紹介していただきました
http://www.g-project.jp/
D project 1人1台端末活用研修パッケージ
①まず先生が楽しむ研修に(60分)
②授業づくりのイメージを持つ研修に(90分)
③授業でどう使えるか考える研修に(90分)

総合的な学習の時間で、jamboardを使用しているが今後タブレット端末などで共同作業でまとめる活動を進められるように指導を行ってみたい。

jamboardが思考ツールとして魅力的だったので、実際に総合的な学習の時間で活用してみようと思った。また、タブレットが子どもたちにとって「あたり前」になることが中一づーだと分かったので、実際に使用できる機会を増やしていきたい。中川先生に紹介していただいたロープロジェクトも参考にしていきたい。

あたり前になったICTをどう教師が活用するか、生徒に活用させるかを考えさせられる時間となった。例えば生徒の発表を動画に撮って、さらに良いものに修正させたい。

生徒にとってiPadが目新しいものでなくなるような活用の仕方をしていきたい。子どもたちがICTを積極的に活用していることを職員間で共有していきたい。

「ICTを活用した授業づくり研修」(11月30日開催予定)では、以下の点について各校の取り組みを持ち寄り、学びあひましよう。

- ・ ICTを効果的に活用したわかる授業
- ・ 1人1台端末や Google Workspace の機能を生かした授業改善

本年度の教職員研修では、オンデマンドで行うICT活用研修の他、学校司書・司書教諭研修でもICT活用を絡めた内容を取り入れました。夏季休業中の全教職員研修でもGIGAスクール構想にふれます。

サポート研修の紹介

6月3日(木)に、用瀬小学校にて、ICT活用のサポート研修を実施しました。

- ・ Google アカウントへのログイン
- ・ Classroom へのクラス作成
- ・ JamBoard を使った意見交流、共同制作
- ・ Google Forms を使ったアンケート、課題配信 等

iPadにプリインストールされている各種アプリの活用方法について研修していただきました。

サポート研修の申し込みは、学校教育課指導係または総合教育センター研修企画係までご相談ください。



Meetのチャット機能を使った情報共有等、Web会議形式の研修受講そのものが先生方のスキルアップにつながっています。

一気にやってきたGIGAスクールのスピードに、ハード・ソフト両面でなかなか追いついていない現状がありますが、知恵を出し合いながら利活用を進め、前進していきます。



今年度より、本市の小・中・義務教育学校で新たなシートを活用しながら「スクリーニング」を実施していただいています。今回はスクリーニングについて御紹介します。

○スクリーニングとは・・・

児童虐待、いじめ、貧困等、どの児童生徒もこれから直面するかもしれない問題や困り感、辛さを抱える恐れのある状況を未然に防止するために行います。また、客観的なデータに基づき、児童生徒を複数の教職員で見取ることで、表面化しにくい問題を早期発見し、早期対応につなげていきます。今年度もスクリーニング会議や校内チーム会議等において、役割分担しながら教職員の具体的な関わり方を決めたり、ケースに応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが加わり、関係機関へつなげたりしています。

○支援の方向性について

スクリーニングシートの中では、支援の方向性を「A 教職員の関与」「B 地域資源の活用」「C 専門機関の活用」の3つに分類しています。スクールソーシャルワーカーがスクリーニング会議等で活用するために作成した一覧を下欄に掲載していますので御活用ください。また、スクールソーシャルワーカーが学校訪問した際に詳細について尋ねていただいても構いません。

スクリーニングシート

支援の方向性

＜継続と決定する→続(1) 新規に決定する→新(2) 提案したが拒否→拒否＞

A 教職員の関与								B 地域資源の活用								C 専門機関の活用				
① 担任のアプローチ	② 生徒指導や児童生徒支援アプローチ	③ 養護教諭のアプローチ	④ 特別支援担当のアプローチ	⑤ 学年団のアプローチ	⑥ SSWを活用したアプローチ	⑦ SCを活用したアプローチ	⑧ その他()	① 家庭教育支援の活用	② 学習支援の活用	③ 居場所、子ども食堂等の活用	④ 単発の事業活用	⑤ 地域人材の活用	⑥ 学童保育の活用	⑦ 地域の福祉サービスの活用(放課後デイ等)	⑧ その他()	① 家庭児童相談室・児相を活用	② 少年サポートセンター活用	③ 教育センター活用	④ 福祉制度活用(生活保護、母子相談等)	⑤ その他()

備考

スクリーニング会議では、校内チーム会議に挙げる児童生徒を教職員の持っている情報とデータをすり合わせながら検討していくことになります。児童生徒数にもよりますが、1学年につき約30分程度で情報共有します。

ここに示している関係機関や事業の他にも校区ならではの地域資源があるかもしれません。学校ならではの地域資源がある場合は担当校区のスクールソーシャルワーカーにぜひ、お伝えください。

B 地域資源の活用	
① 家庭教育支援の活用	
② 学習支援の活用	・ひとり親家庭学習支援事業 ・放課後学習支援(学校、地域)
③ 居場所、子ども食堂などの活用	・子ども食堂 ・児童館 ・公民館 ・図書館
④ 単発の事業活用	・ショートステイ事業 ・平日日帰りステイ ・トワイライトステイ事業
⑤ 地域人材の活用	・主任児童委員(民生児童委員)
⑥ 学童保育の活用	・放課後児童クラブ
⑦ 地域の福祉サービスの活用(放課後デイ等)	・放課後デイサービス ・人権福祉センター
⑧ その他	

C 専門機関の活用	
① 家庭児童相談室・児相を活用	・こども家庭相談センター ・こども発達支援センター
② 少年サポートセンター活用	・東部少年サポートセンター ・法務少年支援センター
③ 教育センター活用	・サポートルーム(すなはま、レインボー、かわはら) ・県いじめ・不登校総合対策センター(ハートフルスペース、専門医相談、教育相談)
④ 福祉制度活用(生活保護・母子相談等)	・パーソナルサポートセンター ・児童手当 ・児童扶養手当 ・特別児童扶養手当
⑤ その他	・医療機関 ・希望館 ・フリースクール(すてっぷ、ちゃれすくーる)